



BMXは、1970年頃アメリカカリフォルニアで子供たちが20インチクルーザーバイク（自転車）でモトクロスを真似た事から始まり、70年代半ばには専用のバイクを使ったレースが全米で行われるようになりました。他の英語圏でも広まり、1982年には初の世界選手権が開かれました。バイシクル(自転車)のBとモトクロスのMXで、BMXと表現されるようになりました。

BMXの競技はレースとフリースタイルの2系統に別れています。簡単に言えばレースは速さを競うもの、フリースタイルは技を競うものである。フリースタイルが誕生した当時はレース用の車体を使用していたが、次第に競技ごとに特化していき、現在では一台のBMXをレースとフリースタイル両方に使用することはあまりありません。さらにフリースタイルの中でも各競技ごとに車体に特徴があります。

レース Race

様々な形状のジャンプ台やコーナーを含む400 m程のダートコースを最大8人のレーサーが一斉に走り、予選、準決勝、決勝と着順を争います。更に年間の成績でランキングが決まり、翌年度のプレートナンバーとなります。他の自転車競技と比べて、幼い子供でも行うことができるため、自転車競技の出発点となることも多く、ロードレースやマウンテンバイクのレーサーはBMXレース経験者であることも多い。国際自転車競技連合（UCI）の管理種目であり、オリンピック競技ではありませんが、オリンピックでは、従来のレース

のスタイルとは異なりSupercrossと呼ばれる。Supercrossでは、15 mを超えるジャンプが設けられていることもある。レース中の接触や転倒、何が起こるか分からない激しさから「自転車の格闘技」とも呼ばれている。

フリースタイル Free Style

様々な技を披露し、その難易度・独創性を競う。フリースタイルは**エクストリームスポーツ**のひとつであり、**X Games**の一種目としても知られてます。大会は**フィギュアスケート**のような形態をとり、制限時間内で自由に技を入れていき、ジャッジによるポイントで順位を決める。また、ストリートカルチャーの一つでもあるため、競技性を度外視して創造的なライドを楽しむという側面もあります。

フリースタイルは、さらに以下の5種目に分類されます。ただし、フラットランドを除く4種目については、競技の場所こそ違うものの技の性質はかなり近いので、複数の種目にまたがって参加する人も珍しくありません。さらにストリートとパークは特に似ているので、しばしば単一競技「ストリート」として扱われる事もあります。

フラットランド Flat Land

また2019年よりUCIの種目となっています。2022年の世界大会では日本人が表彰台を独占して話題。

舗装された平らな地面を舞台とする種目。比較的狭い面積内をゆっくりと走行しながら、バランスをとりつつ様々な技を連続して入れていく。車輪の左右に装備された4本の**ペグ**に乗り、ハンドルやシートをさまざまな体制で保持し、タイヤを靴底で擦るなどして、あたかも自転車とダンスをしているかのように巧みに乗りこなす。**X Games**の一種目。

パーク Park

スケートパークという専用の施設で行われる。名前の通り、もともとはスケート（sk8、インライン）用の施設であるが、BMXのフリースタイルライディングでも使用されるようになる。クォーター、ピラミッドなどの大きなセクションでダイナミックにエアを決める。コンクリートパークでのライ

ディングも人気がある。BMXはスケートボードに比べて重く、金属の突起も多いため、セクションの破損を嫌ってBMX禁止とするパークもあります。現在X Gamesの一種目。また2016年よりUCIの管理種目となっています。

ストリート Street

パークと区別するためにリアルストリートと呼ばれることがあります。フリースタイルの元祖はクォーター等を使ったスタント的なものだったが、BMXがストリートカルチャーの形で大衆に広まったことで生まれたライディングスタイルです。パークセクションの代わりに街中にある縁石・手すり・壁などの地形や構造物を利用し、思いつくままに技をしていく。具体的には、段差を利用して飛んだり、壁を走ったり、階段の手すりにペグを引っかけて滑ったりします。現在X Gamesの一種目。

トレイル Trail

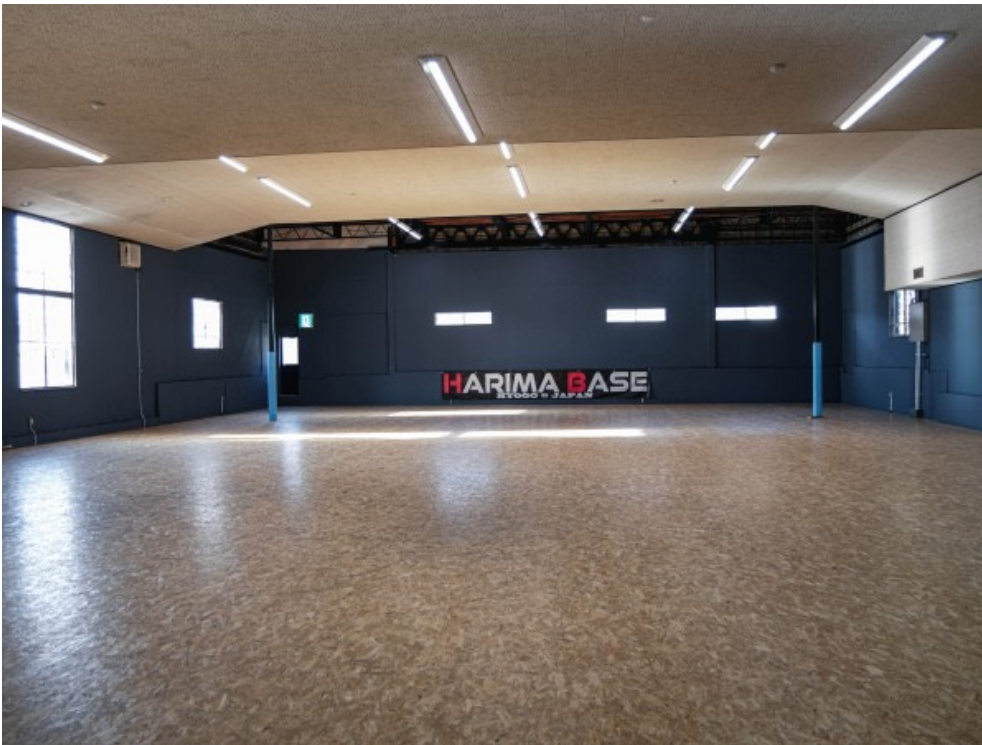
ダートジャンプとも呼ばれる。地面を掘り起こして大きなこぶを多数作った土のコース「トレイル」で、連続してジャンプし空中で技を披露する競技。土のコースを使用する点はレースと共通であるが、レースのこぶは障害物の一つであるのに対し、トレイルのこぶは空中へ高く飛び出すためのジャンプ台であり角度が急である。X Gamesの一種目だったが現在は廃止。

ヴァートVert

ヴァートランプと呼ばれる巨大なハーフパイプ（U字型に組まれた大きな台）の中を、ブランコのように往復してその勢いで台から上空へ飛び出し、その時に空中で技を繰り出す競技。おそらくフリースタイルの中でも一番危険で恐怖感も大きいため、世界的に見ても競技人口は少ない。現在X Gamesの一種目。

オールドスクール

フリースタイルBMXの黎明期1980年代の車体とトリックを模倣したスタイル。競技ではないが一定の支持層がいます。当時の本物のパーツを収集して楽しむBMXマニアだけでなく、一部の若者の間でファッションとして人気があります。



播磨中央公園に隣接する民間経営のHARIMA BASEさん

全国からライダーが、集まり出してるこの施設。合宿やBMX練習スペースとしてオープン半年で全国でも人気のBMXスポットとして認知されました。

その背景に、東京オリンピック以降若者に人気の競技とされるBMXですが兵庫県や大阪府、岡山県など競技を集中して練習出来る場所が少ない事が挙げられる。競技人口が増加、国内競技者がオリンピックを始めとする国際大会などで好成績を残す一方で、全国的に練習する場所が少ないポイントに注目して播磨中央公園と言う自然が素晴らしい立地条件を活かした兵庫県内一番のアーバンスポーツ複合施設建設を要望致します。

播磨中央公園にBMXパークや、BMX&MTBレースコース、トライアルコーススケートパークや、ダンスなど大会、イベントが開催出来るステージなど全国でも前例の無いアーバンスポーツの複合施設が完成すれば電車や、バス、公共交通機関を利用者が増える可能性や地元の食を全国の人が知るきっかけになる可能性。お寺や神社など文化施設や、東条湖などの観光施設や宿泊施設にも足を運ぶ人が今まで以上に増加する観光資源となると予想。競技に集中出来る環境があれば近隣、全国から兵庫県や加東市に移住を考える家族も期待。全世界で、急激に増加してるアーバンスポーツの競技人口は世界的にも注目を集めています。



日本でも多くのアークスポーツを楽しむ環境が存在すればインバウンドのビジネスなどの可能性も上がると予想。資金感に合わせた構想と長期運営を見据えた企画を進める事で地方都市での公共のBMXパークやスケートボードパーク建設は加東市全体の集客を増加させ観光資源に成り得るとご提案します。

